

【新規 市文化財指定】

名 勝

小諸城址 懐古園

4月8日、小諸市教育委員会は小諸城址懐古園を市指定文化財の一つ、「名勝」に指定しました。今も残る小諸城の遺構、豊かな自然景観、島崎藤村に代表される文化人の足跡、それらの調和が生み出す歴史的風致が高く評価されての指定となります。

小諸城址懐古園は、小諸市のシンボルでもあり、誕生から今日まで多くの市民の手で大切にされてきましたが、近年、懐古園の保存を着実なものとするため文化財指定について検討されるようになり、市文化財保護審議会等で議論を重ねた結果、市の名勝に指定することになりました。

これをきっかけに、今後は国指定も見据えた保存活用に取り組み、小諸の貴重な財産を次世代に継承していきます。



沿革

長享元年 (1487)	武将 大井光忠が鍋蓋城 (小諸城の前身) を築城。
天文 23 年 (1554)	大井氏が武田 (晴信) 信玄に降伏。武田氏の元で城郭整備実施。
天正 19 年 (1591)	仙石秀久が小諸に入る。城下町と合わせて大規模整備。
明治 6 年 (1874)	城地の一部を旧小諸藩士が払い下げを受ける。
明治 13 年 (1881)	城地の一部を懐古園とする。
大正 15 年 (1926)	小諸町長 隈部親信が本多静六博士に依頼し、「小諸公園設計案」を作成する。小諸城址を中心に約6万坪の公園化に着手。
昭和 56 年 (1981)	小諸市都市公園条例で都市公園に規定。

名勝「小諸城址懐古園」指定区域

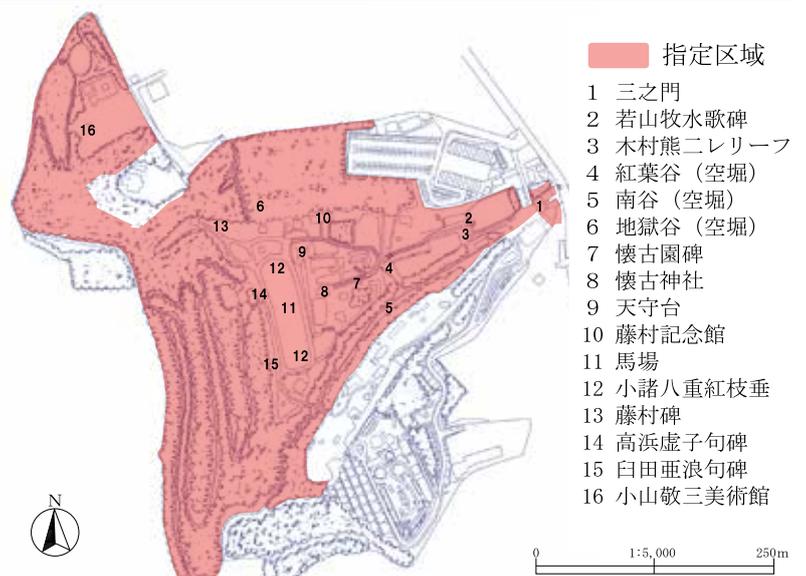


図 文化財・生涯学習課 文化財・生涯学習係